

## 編集 後記

今年、パリオリンピック2024大会が開催されました。選手の活躍に、感動や勇気をもらった皆さんも多いのではないかとお察し致します。COVID-19パンデミック後の世界の祭典は、これまでのように華やかでにぎやかの中に、選手たちのひたむきさ、真剣さからいくつも胸を打つ場面がみられました。無課金おじさん、初老JAPANなどは若い選手に交じって、大会を沸かせたベテラン勢がいました。競技によりますが、中高年の活躍があることは、高齢社会の到来により当たり前に第一線として活躍できる年代層が広がっていることを示しています。オリンピックのダイバーシティの対応が進んでいる様子を垣間見させていただきました。ダイバーシティと健康も、近未来の公衆衛生のひとつとなりえるテーマだろうと思われまます。

疾病構造の変化、保健医療福祉制度の多様化、地域包括ケアシステムによるシームレス化、健康寄与要因の複雑化、国民の価値観の変化、さらにはデータサイエンスやAIによる新たなアプローチからの知見、データの背景となる個人情報保護管理の徹底など、公衆衛生の取り扱う範囲は、社会のニーズに相まって発展を遂げています。疾病の予防や早期発見、危険因子の解明のみならず、社会格差や貧困、インターネットなどのテクノロジーと健康、保健医療福祉へのアクセス、医療の質の確保、“生きる”を支える生活への支援など、公衆衛生やその関連領域は枚挙にいとまがありません。さらに、地震や豪雨、迷走する台風などの自然災害や、ウクライナや中東などで起こる国家間・地域間の戦争など、これまで予期しなかったことが起こる時代となりました。この中でも、公衆衛生は、人々の生命や生活を衛る立場から、最前線で活動することさえあります。公衆衛生の先人たちが歩んできたように、時代の変化に対応し、社会に対し先見性をもつ実践的研究を進め、科学的知見を用いて国民の生命を守り健康の向上に寄与するよう、今を生きる私たち、そしてこれからの公衆衛生人材も、この公衆衛生の本質は忘れないで頂きたい。

公衆衛生の幅広さ、懐の深さを示している本号です。読者の皆様に、この公衆衛生のダイナミズム、また日頃の公衆衛生業務で携わっている成果を公表することの重要性をお感じ頂ければ、編集担当として幸甚です。

冒頭の話題に戻ると、近代オリンピックを提唱した

## 次号予告 (第71巻・第11号)

### 論 壇

ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチンの接種後症状についての大規模疫学調査 (名古屋スタディ) と健康接種者バイアス  
……………鈴木貞夫

### 原 著

1 歳 6 か月児を持つ母親の経済不安と主観的健康感および身体的疲労感との関連  
……………緒方靖恵, 他  
産婦健康診査で要支援となった母親に対する保健師の対応……………松岡あやか, 他

### 資 料

介護予防リーダーにおける10年間の活動における役割と気持ちの変化……………河合 恒, 他  
食習慣変容ステージ別にみた食行動・食品群別摂取状況の変化: 女子大学生の1年間の縦断調査結果の分析から……………笠巻純一, 他  
生活保護受給者への架電による健診の受診勧奨と受診行動との関連: 豊中市の2年間の取り組み……………西岡大輔, 他

クーベルタン男爵は、オリンピックの精神を、「スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍などさまざまな違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界の実現に貢献すること」としています。スポーツの部分を“公衆衛生”に置き換えたとしても、その意は皆様にご理解いただけることと思います。公衆衛生の精神も、地域や国、人種や大陸を越えて通用する、大切なマインドであると思われまます。どんな時代であっても、公衆衛生の灯は絶やさない努力が求められることと思います。こんなことをつれづれに思う、編集おじさん、初老を過ぎたJapaneseのひとりが編集を担当させて頂きました。

2024年もいろいろあった年ですが、皆様の公衆衛生に関わる仕事が近い将来に結実し、一層、国民の健康や福祉が向上しますよう切に願っております。これからも皆様方からの投稿を本誌はお待ちしております。

(神田秀幸)